28Cl-am05

血清検査値から重篤化する可能性のある患者を予測する試み

○渡部　俊彦[1], 小笠原　綾子[1], 三上　健[1], 西村　孝一郎[2], 高橋　真由美[3],
金子　俊幸[3], 松本　達二[1]（[1]東北薬大, [2]山形市立病院済生館薬, [3]北村山公立病院薬）

【目的】医療技術の進歩により、日本国民の平均寿命は年々、増加の傾向にある。高齢者の健康を管理することは、高齢化社会の日本では大変重要な課題であるが、高齢者の場合、患者自身が体調不良の認知ができないことや、不調を認知していても周囲に伝えることが出来ないことがある。この様な場合、適切な検査を行うことで体調不良の状態を診断することはできるが、予防的に診断を行うことは、患者にとって肉体的・経済的な負担が大きくなってしまい、実施することは容易ではない。そこで、我々は、ルーティン検査の一つである血清検査の結果を、患者の容態変化の予見に応用できないかと考え、それについて検討を行った。【方法】山形県の村山地区にある２つの総合病院に入院する患者で真菌感染症が疑われた 68 名を対象に、血清検査結果と予後の比較を行った。予後不良の患者に特徴的に現れる血清検査値の変化を分析し、それが容態変化の予見に応用できるか否かを検討した。【結果および考察】調査を行った 68 例中、死亡例は 32 例あった。調査対象とした 68 例を「白血球数」と「GOT、GPT、BUN 値」を指標に分類したところ、「白血球数 10,000 個/μl 以上」と「GOT、GPT または BUN 値のいずれか 1 項目が 100 IU/l （BUN の単位は、mg/dl）を越える」の条件を同時に満たしたグループ（24 例）では、70.8% （17 例）の方が死亡していた。死亡 17 例のうち 82.4% にあたる 14 例が、この条件を満たしてから 40 日以内に死亡していた。また、GOT、GPT または BUN 値の上昇は、いずれも一時的なものであった。これらの数値が上昇する原因は不明だが、この様な値を示す患者の中には、肝機能に異常を示す例があり、肝機能障害が検査値の変化として現れる可能性が示唆された。この評価方法を用いることで、致命的な肝機能の不調を予見できる可能性が期待される。